

出雲國

親之敵討松平出羽守領分
仁多郡上阿井村

百姓

五兵衛

元祿六年

親之敵討同領

五兵衛弟三

助

同美

親之敵討同領

七兵衛

同美

同美

復伯父讐

〔翁草五〕一讚州高松城主生駒壹岐守高俊石七江戸家老生駒將監と云、國家老前田助左衛門と諍

論出來、家中騒動に仍上聞に達し、寛永十七年八月、生駒所帶沒收、壹岐守は羽州由利へ配流、前田

助左衛門は切腹、生駒將監は雲州松江城主松平出羽守へ御預ケにて、事既に落去せり、然るに助

左衛門甥に前野織部と云者有、情と思案しけるは、此度將監が非道にて、伯父助左衛門は切腹し、

主人は流刑に成給ひ、結句將監は存命する社恨なれ、所詮將監を討て、此鬱憤を散せんと、忍て雲

州へ下り、將監をねらへども、公儀御預けもの、事なれば、中々容易に本望を遂がたし、織部詮方

無き儘に、將監が在る宅に火をかくる、去れ共將監を預りの番人とり圍て立退故に、討事不能、然

處に將監は一ケ年に一兩度程、此家の長臣乙部九郎兵衛方へ振舞に招きて、終日慰事あり、依之、

織部身をやつし縁をもとめて、乙部方へ鷹匠奉公に出る、中其後九郎兵衛宅へ將監を招て催

しあり、織部時至りぬと悦び、九郎兵衛に願ひけるは、某は新參にて御家中の旁未見知不申候故

途中不禮等仕候ても、如何に奉存候、何卒御玄關番を仰付られ被下かしと云、乙部聞て尤成心懸

也とて、則玄關の執次をさせける、扱當日に成しかば、生駒將監、九郎兵衛屋敷に來て、案内を乞、織

部あはやと思ひ、是を案内し、將監書院へ通る處を廊下にてやり過して、言葉を掛るより早く突

殺す、中織部少も不騒斯の次第と始終を演説す、九部兵衛部乙駭き走出て、織部が手を取、扱々

神妙の事先は本望を被遂、満足たるべし、只今迄斯とは不知失禮せり、乍去大法なればとて、一間

江城主

雲州松在府に仍て、早追を以注進す、羽州急ぎ上聞に達せら